



鳥取県立図書館

とっとり県民カレッジ連携講座



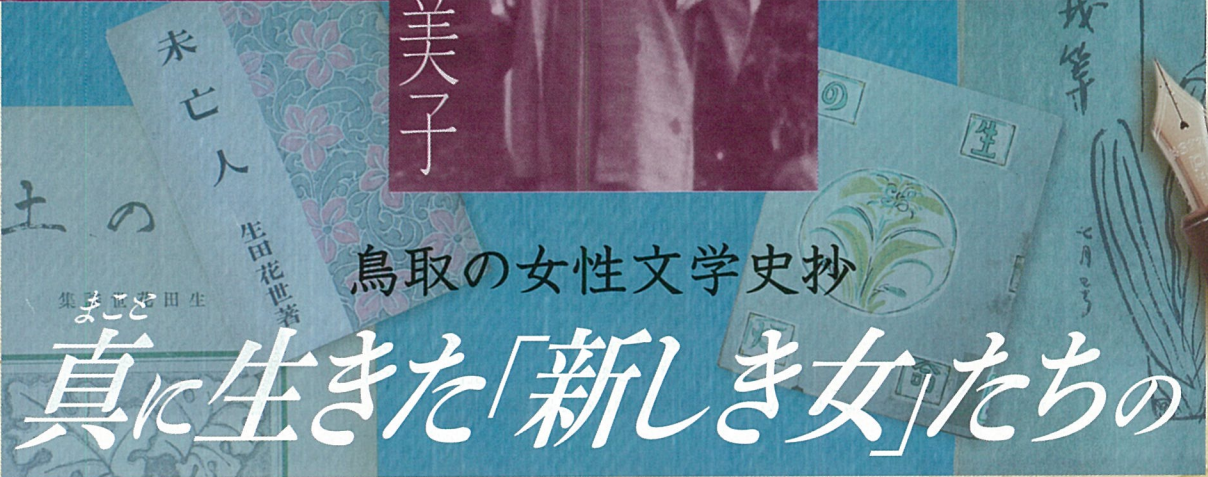
生田花世



岡田美子



田中古代子



鳥取の女性文学史抄

真に生きた「新しき女」たちの

# 情熱と苦闘

平成29年7月22日(土) → 9月3日(日)

鳥取県立図書館 2階 特別資料展示室 | 入 | 場 | 無 | 料 |

開館時間 □火～金 9:00～19:00 □月・土・日・祝 9:00～17:00

休館日 7月31日(月)・8月10日(木)・8月31日(木)

# 情熱と苦闘

真に生ききた  
新しき女たちの

近代日本において、女性が文章を書き世に問うことは、非常な熱量を必要とし、時に苦闘を強いられました。大正時代前後には、女性が本来的な姿で生きることを社会的に獲得していく「新しい女」のあり様が、社会的な潮流となって現れます。社会的に苦闘し、文学の世界で自己の表現を獲得してきた女性文学者の姿には、同時代に芽吹いた「新しい女」の姿が重ねられます。

鳥取にゆかりのある女性文学者もまた、同時代を生き抜きます。彼女たちの息吹を感じることができる作品や資料を紹介します。

## 展示内容

- 第1章 鳥取ゆかりの女性文学者
- 1 「新しき女」田中古代子
  - 2 「目覚めた女性」岡田美子
  - 3 「情熱と執念の人」生田花世
- 第2章 鳥取女性文学者群像
- 1 全国で活躍した女性作家
  - 2 郷土文芸雑誌に参加した女性たち

## 田中古代子

たなか こよこ

生没年/1897~1935 出身/現鳥取市気高町

山陰初の女性記者となり、作家として関東に進出します。10代から評論や短歌を郷土文芸誌『我等』、新聞紙などに寄せ、22歳で書上げた小説『諦観』は『大阪朝日新聞』懸賞で当選し、有島武郎から高い評価を得ます。後年上京しますが35歳の時に帰郷し、生来の病弱のため38歳の若さで亡くなります。

17歳の時、「不具と云われた女より」を『因伯時報』に投稿し、社会的反響を得ます。後、古代子の生き様は「新しき女」と評されました。



『田中古代子創作集』鳥取の文化人川上貞夫が作成した新聞スクラップで、「諦観」ほか創作3編の原紙が貼られる【館蔵】



鳥取市立気高図書館蔵

## 岡田美子

おかだ よしこ

生没年/1902~1967 出身/現大山町御来屋

米子高等女学校卒業後、医師を目指しますが家庭の事情で断念します。文学への関心も高く、急逝した姉の後添えとして国府町の岡田家に嫁ぎ、谷間の小さな社会に身を置きながらも岸田國士に師事し創作活動を続け、小説家・戯作家として広く作品を発表しました。

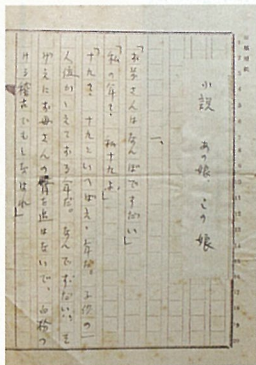
女性だけの郷土文芸誌『女人文芸』の創刊・編集に深く関わり、郷土随一の女性作家として評価されています。



館蔵



『女人文芸』創刊号ほか多くの女性たちが種々の作品を寄せている



「あの娘、この娘」手稿 昭和4年の脱稿である【館蔵】

## 生田花世

いくた はなよ

生没年/1888~1970 出身/現徳島県上板町

文学を志し上京しますが、一人生きることもままならない東京での生活に苦闘します。自身の体験を基にした「告白的感想文」や詩歌は、『青鞥』などの文芸誌を中心に幅広く発表されました。「感想文」は、平塚雷鳥によって『青鞥』誌上「価値高きもの」と評されます。

鳥取との関わりでは、生田春月、生田長江、尾崎翠、杉森留三、枝野登代秋、などとの交流がうかがえ、花世が多作した「感想文」の土台には阪本四方太が推進した「写生文」があったことが知られています。



左:『女流作家二十二人集』(『婦女界』昭和8年11月号附録)明治43年創刊。最初期の婦人雑誌で、短歌8首が取り上げられている【館蔵】  
右:『情熱後純』(昭和15年刊)戦時中には本書をはじめ多数の著書を出版している【館蔵】



生田花世・春月肖像 (『生田春月全集』5巻所載)【館蔵】



『女人文芸』昭和4年6月号所載(不二出版刊 複製本)【館蔵】

【主催・お問い合わせ】

## 鳥取県立図書館

〒680-0017 鳥取県鳥取市尚徳町101  
TEL 0857-26-8155 FAX 0857-22-2996  
HP www.library.pref.tottori.jp/

開館時間 □火~金 9:00~19:00 □月・土・日・祝 9:00~17:00  
休館日 7月31日(月)・8月10日(木)・8月31日(木)

### 交通アクセス

- バス……『県庁・日赤前』下車
  - バスターミナルから砂丘・湖山・賀露方面行 バスで約10分
  - 市内回り岩倉・中河原方面行バスで約15分
- 徒歩……JR鳥取駅から約20分

